

「この街」のために。「あなた」のために。

そっこう[®]

S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2019年11月号(月刊) 発行: 社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



2019 / 11月発行 / vol.053

特集 眼科▶

白内障を理解する／眼科部長・里深医師

特集 眼科▶

患者さんからの白内障手術体験談／作詞家・宮内たけしさん

白内障を理解する

眼科部長・里深信吾

はじめに

今回は白内障についてご紹介させていただきますと思います。皆様も白内障という病気の名前くらいは聞いたことはあるかと思いますが、実際のどのような病気なのかまではなかなか存じないのではないかと思います。また周りに手術を受けた方もおられるかもしれませんが、実際にはどのような手術なのか興味があるのではないのでしょうか。今号では、当院で手術を受けてくださった作家・宮内たけし様から白内障手術の体験談を寄稿いただきましたので、ご紹介させていただきますと思います。少しでも皆様のご参考になれば幸いです。

白内障とは？

白内障とは、水晶体(図1)が年齢とともに白く濁って視力が低下する病気です。水晶体とは、目の中でカメラのレンズのような働きをする組織で、外からの光を集めてピントを合わせる働きを持っています。通常は透明な組織ですが、白内障では白く濁ってしまつたため、集めた光がうまく眼底に届かなくなり、次のような症状が引き起こされます。

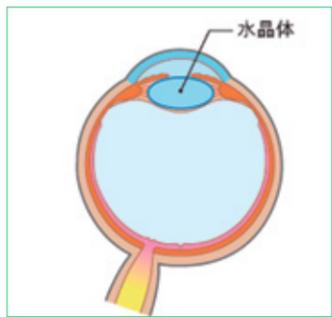


図1

白内障の代表的な症状

- 視界が全体的にかすむ
- 視力が低下する
- 光をまぶしく感じる
- 暗い時と明るい時で見え方が違うなど

白内障の種類と原因

水晶体は主にたんぱく質と水でできています。たんぱく質は、加齢や、長年にわたる紫外線曝露など、さまざまな影響を受けて、だんだんと変化し白く濁ります。その結果、水晶体全体が濁り、視力の低下を招くこととなります。

白内障はさまざまな原因で起こりますが、最も多いのは加齢によるものであり、これを「加

齢性白内障」と呼んでいます。

個人差がありますが、誰でも年をとるにつれ、水晶体は濁ってきます。加齢性白内障は一種の老化現象ですから、高齢の人ほど多く発症します。光が水晶体を通過する面は瞳孔の大きさで変わりますので、光が通過しないところが濁っている場合は、自覚症状はほとんどありませんが、瞳孔を開く検査(散瞳検査)で水晶体を観察すると、早い人では40代から白内障が発見され、70歳を超えると、ほぼ100%の方に白内障があると

言われています。

白内障の治療について

視力の低下や目のかすみが生じ、日常生活に支障がない初期の段階では、経過観察が基本です。ピレンキシム製剤やグルタチオン製剤などの点眼薬を使用することもありますが、水晶体が透明に戻るわけはありません。進行した白内障に対しては、濁った水晶体を手術で取り除き、眼内レンズを挿入する方法が一般的に行われます。

白内障手術でどうしてピントを合わせるか？

「白内障手術後のピントは遠くか近く(あるいはその中間)のどちらに合わせるのでしょうか?」という質問が患者さんからよくありますが、基本的には元々の手術前の状態に合わせることをおすすめしています。裸眼で元々遠くが良く見えていた方はそのまま遠くに、近くがよく見えていた方は近くに合うようにします。白内障手術を受けると眼鏡がいらなくなると思っている方がたまにいらっしゃいますが、あくまで手術で白内障という病気が治るだけであって

近視・遠視・乱視などは残りま

患者さんになるべく合った見え方にしたいと考えていますので、手術前に時間が十分に取れるように午後の外来に1度お越しいただいて、お話を伺えます。

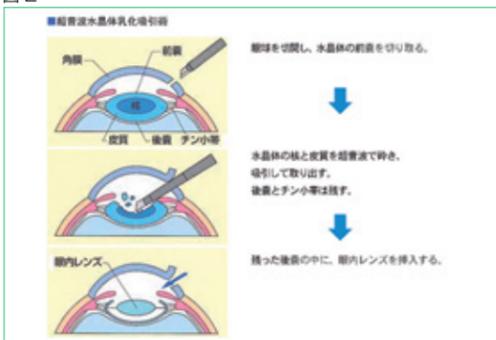
最後に

それから、手術を受けた周りの方から色々話を聞いて受診される患者さんが多いのですが、あくまでそれは手術を受け

当日では白内障手術は基本的に1泊2日(ご希望で2泊3日まで可)で行っていますが、外泊という形で日帰り手術にも対応しています。手術日は火曜日全日と水曜日午後です。

最近見づらくなってきたなどの症状がありましたら、お気軽に眼科外来を受診してください。

図2



た水晶体を手術で取り除き、眼内レンズを挿入する方法が一般的に行われます。白内障が進行して日常生活に支障がみられる場合には、外科的手術が行われます。白内障の手術は、多くの患者さんが安心して受けることができる手術の一つで、手術を受ければ視力の回復が見込める病気です。現在では「超音波乳化吸引術」が一般的です(図2)。この手術では、約2~3mmの創(きず)から超

音波で振動する吸引管を挿入し、灌流しながら水晶体を吸出し、残した薄い膜(水晶体嚢)の中に眼内レンズを挿入する方法が主に行われていますが、進行した白内障は手術が難しく、ほかの手術方法が選択される場合もあります。手術は顕微鏡を使って行われますが、一見簡単で手軽に見えるこの手術も、熟練した眼科医が高度な手術機器を用いて、顕微鏡下で行う大変繊細な手術です。麻酔の方法は当院では点眼薬による局所麻酔で、手術中の痛みはほとんどありません。

白内障は高度な医療技術と手術に携わる医療関係者の努力によって年々進歩しています。手術時間が短いことが良い手術と

PROFILE

灘高等学校 卒業
慶應義塾大学医学部 卒業

1999年 慶應義塾大学医学部 眼科学教室
2001年 国立病院機構 栃木医療センター(旧 国立栃木病院) 眼科
2002年 足利赤十字病院 眼科
2004年 慶應義塾大学医学部 眼科学教室 助手
2005年 慶應義塾大学医学部 網膜細胞生物学研究室・眼科学教室 助教
2009年 米ケンタッキー大学 眼科学教室 University Teaching Staff
2010年 帝京大学医学部 眼科学講座 講師
2012年 行田総合病院 眼科 部長

受賞歴
平成22年度日本眼科学会学術奨励賞受賞
平成23年第5回日本糖尿病眼科学会学術奨励賞「福田賞」受賞

患者さんからの白内障手術体験談

見える！ 明るい！ くっきり！ 鮮やか！

どんな表現をしても、 言いつくせない感動の世界。

作詞家・宮内たけしさん



宮内たけしさん
PROFILE

1941年生まれ。中央大学法学部を卒業後、赤札堂に入社。東天紅に向向し、アメリカオハイオ州デイトン店店長ののち独立。フロリダ州にレストランを開店。父の病気のため帰国し、ゴルフ場開発などの仕事を経て作詞家を志す。プレジアレコード作詞コンテスト新人賞受賞後、1991年『大人になりたい』（歌・宮下千鶴）の作詞でキングレコードよりデビュー。1993年東松山市日本スリーデーマーチ大会歌『さあ歩こう』の作詞で最優秀作品賞を受賞。故・中田喜直の作曲で作品化された。1998年日本作曲家協会作詞コンテストにおいて石川さゆり・美川憲一の両部門で優秀賞を受賞。2014年『恋の津軽十三湖』（歌・長山洋子）が大ヒット。所属団体は日本作詞家協会、日本音楽著作権協会、日本スポーツウエルネス吹矢協会、鴻巣・北本倫理法人会、鴻巣水曜ロータリークラブなど。北本市観光大使を拝命している。

眼帯を外した瞬間!!
見たことのない明るさと、信じられないほどの裸眼の視力。人生で初めて味わう感動の瞬間に涙が溢れ出た!!
「経過は良好ですよ」先生の優しい言葉が嬉しかった。次は右目。2回目の手術。すべてが前回体験していたので、楽に手術を終えることができた。手術後の「無事終わりましたよ」という言葉に、百万倍の勇氣と安心感が湧いてきた。「任せてください」の一言が、多くの人に勇

気と信頼感を与える力であると、いうことを実感させられた。言葉の持つ力は、心の底から出たものだから、人々の心に届くのだろう。
術後の痛みは全く無く、その夜は、不安も全く感じることなくぐっすりと眠れた。
翌日には、人生最大の歓喜の瞬間が待っていた。1回目と同じく、眼帯をして保護メガネをかけた不思議な一団が外来に移動した。2番目に呼ばれ、眼帯が外された瞬間、またしても涙が溢れてきた。
「見える見える見える!! 明るい明るい明るい!! くっきりくっきりくっきり!! 鮮やか鮮やか鮮やか!!」
どんな表現をしても、言いつくせない感動を感じた。ありがとう! 裸眼で新聞が読める。パソコンが使える。スマホがハッキリ見える。テレビってこんなに明るかったの? 小さい頃から目が悪かった私は、物がおんなに良く見える感動を独り占めた気がした。両目が見えるようになったら医師への感謝の気持ちが大きく溢れてきた。
その後、家内も里深先生から白内障の手術を受け、感動を共有して毎日元気に過ごしている。人生において勇氣と感動を体験させてくれたスタッフの皆さんに感謝しています。
最近なんだか目がおかしいなあど気がついた時がタイムイングです。迷わずに行田総合病院の眼科へ行こう。そこには、感動と勇氣をくれる人達がいま



宮内さんは著書『奇跡はこうして生まれた 出会いと気づき (悠々社)』の文中でも当院眼科での白内障手術についてお書きくださっています。

数年前から、目に不自由さを感じていた……。
ゴルフボールが飛んで行く先がよく見えない。パソコンの文字がぼやけて見える。
いつものメガネ店で視力を検査してもらったところ「これ以上、視力矯正は無理ですから、一度眼科に行つて診てもらってください」と言われた。小さい頃から、近視でメガネは大切な顔の一部だっただけに、一瞬不安がよぎった。
以前、百歳を迎えた母が、入院でお世話になっていた際に行田総合病院で目にした広報誌『そつこう』に、ある眼科医師の話が載っていたことを思い出し、予約を入れ、眼科を受診した。この出会いが、感動的な体験の始まりだった。
「心配することはないのかも?」
「白内障ですね。今は裸眼で10cm以下の視力ですが、40〜50cmの物が見えるようになりますよ。任せてください」と言ってくれたのは、若い眼科医師・里深信吾先生だった。
白内障の手術には、日帰りもあるが、ここでは、1泊2日の入院が原則だった。
左目から片方ずつ手術をすることになり、3日前から、点眼液をさして手術当日を待った。当日は朝9時に受付を済ませ、病室で順番待ち。初めての体験からか開始時間が近づくにつれて緊張感は大きく高まった。
車椅子で手術室に向かった。手術室の入口ですれ違う手術を終えた方は、何故かとてもニコニコしていた。
「心配することはないのかも?」
看護師が笑顔で話しかけてくれた時、緊張しながらも思わずこちらも笑顔になった。
手術室に入り、まな板の上の鯉と覚悟を決めた。
「大丈夫ですよ。順調ですよ。無事終わりましたよ!」の言葉で、体中の力が抜けていくのが判った。痛みは全くなかった。
しかし、「明日、眼帯を取った時、ちゃんと見えるのだろうか?」新しい不安がよぎった。
「どうして、見えると信じてこ」とができないのだろうか? 私だけがそうなのか? 「色々と考えながらも、とにかく朝が来るのが待ち遠しかった。
朝になって、眼帯をした6名の不思議な姿の一団が病棟から眼科外来へ移動。いよいよ眼帯を外す瞬間が来た…。」

リレーフォーライフジャパン 2019 さいたま さいたま市緑区農業者トレーニングセンター 緑の広場



2019年9月14日(土)～15日(日)

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん制圧を目指し、年間を通じて取り組むチャリティ活動が本年も開催されました。当院からはMSW・看護師が参加。開会式、ルミナリエセレモニー、夜通しウォーク、閉会式と2日間に渡ってほんの少しの雨をのぞけば秋晴れの大変良い天候に恵まれました。今年で11回目を迎えるこの活動。来年も参加させていただきます。

未来の看護師を育てる 臨地実習指導



2019年8月26日(月)～

看護学生実習

本年も2校の実習生63名を受入れ、急性期病棟はもちろん、小児科外来など専門性の高い部署での臨地実習を行っています。

2020年度診療報酬改定を見据えた看護必要度分析 研修会 新南棟 4F 会議室



2019年10月5日(土)

株式会社メディフローラより上村講師を招いて研修会を開催。

看護師・保健師・心理相談員の資格を持つ医療系コンサルタント・上村久子さんを講師にお招きし、2020年度診療報酬改定を見据え、『看護必要度の歴史』や『2018年改定のおさらい』『2020年改定の視点』『当院のデータを確証』などについて、分かりやすい研修となりました。開会の挨拶は坂本管理局長、進行役は尾島看護副部長が務め、看護部の役職者・経営情報課・入院医事課のスタッフが参加しました。



BLS/AED 講習会 新南棟 4F 会議室



2019年9月28日(土)・30日(月)

日本赤十字社埼玉県支部より講師を招いて講習会を開催。

急変時に適切・確実な方法でBLS/AEDが実施できるように、全職員が共通のプロトコルで標準的技術と知識を学ぶための講習会が当院主催で行われました。赤十字救急法指導員である尾島看護副部長とリハビリテーション科副室長寒河江OTがインストラクターを務め、日本赤十字社埼玉県支部・原講師がサポート。参加者は約200名。真剣に学ぶ姿が印象的でした。受講者には講習修了証が配布されました。

秋の防災訓練 行田総合病院/行田クリニック



2019年9月4日(水)

災害拠点病院としての防災訓練に約150名の職員が参加。

本年2回目となる行田消防署監修・総務課施設係企画・実施による防災訓練(毎年2回開催)。【初期消火→119番通報→院内放送→職員緊急連絡網→中期消火→避難誘導→避難完了報告】の順に訓練を行いました。また、行田クリニックでも同内容の訓練を行いました。避難完了報告を行った後、水消火器を使った初期消火訓練(写真)と地震車による大規模地震のシミュレーションを体験しました。

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●外科・消化器外科からのお知らせ

外科によるロボット支援手術の紹介動画を公開しています。



●本年6月から開始している外科によるロボット支援手術

当院外科部長・川原林医師がストーリーテラーを務め、外科副部長・久田医師、東京医科歯科大学附属病院大腸肛門外科科長／ロボット支援手術指導医師・絹笠教授による「ロボット支援手術導入のきっかけ」「ダヴィンチのメリット」「ダヴィンチの意義」「行田総合病院のがんへの取り組み」「地域の皆様へ」といったお話が約3分間にまとめられています。ぜひご覧ください。http://gyoda-hp.or.jp/blog/info/surgical_robotsupport/

[行田総合病院 外科・消化器外科]



●接遇・患者サービス向上委員会からのお知らせ

皆様の声をぜひお聞かせください。

当院では、院内にご意見箱を設けて、皆さまからご意見を賜わり改善を図っています。お寄せいただいたご意見は、回答と併せて掲示板にてご紹介しています。

掲示期間は1カ月間ですが、過去の分については新南棟1階面会受付にてご覧いただけますので、コンシェルジュにお声かけください。このたび、ご意見箱と掲示板を増設しましたのでご利用ください。

【設置場所】

ご意見箱：各階

掲 示 板：東棟1階受付前 新南棟1階エレベータ横 救急外来待合前
西棟連絡エレベータ前 クリニックA館待合前



[行田総合病院接遇・患者サービス向上委員会]

●健診担当からのお知らせ

行田市特定健診を受けましょう。期間：2019年6月1日～2020年2月29日

行田市から届く受診券をお持ちの方はご予約できます。
当院での健診をご希望の方は、お電話にて事前のご予約をお願いします。

▶ご予約・お問合せ

TEL.048-554-0005 (健診担当)

目的：生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームに着目した健診。
対象者：40～74歳までの方で、国民健康保険に加入の方（行田市在住の方）。
検査内容：身長・体重・腹囲・血圧・血液検査等。
自己負担額：500円（70歳以上および所得により無料）詳しくは受診券をご覧ください。

※当院では市健診の他にも個人や企業向けなど、様々なタイプの健診を行っています。

詳しくはホームページをご参照ください。http://gyoda-hp.or.jp/shinryoka_guide/kenshin-2/

[行田クリニック 健診担当]

